



新たな“とちぎ”をつくる

栃木県知事 福田 富一

あらゆる努力を傾けつつも、財政健全化へ向けた道のりは未だ長く険しく、依然厳しい雇用環境などとあいまって、今年度も極めて困難な県政運営を余儀なくされています。

しかし、このようなときだからこそ、県民の皆様と明るい未来を共有することが、一層重要なのではないかと考えています。

折しも、「とちぎ未来大使」をお願いしているU字工事の活躍もあって、連日、マスキの電波に栃木県があふれ、「餃子」や「とちおとめ」とともに、これまで県民が何気なく味わっていた通称「レモン牛乳」が、一種のブランドとして定着しつつあります。

また、同じく「とちぎ未来大使」を委嘱している田臥勇太選手が活躍する日本バスケットボールリーグのリンク栃木ブレックスが「栃木を日本一に！」の合言葉どおり、JBLプレーオフファイナルの優勝を飾りました。宇都宮市中心部で行われた祝勝パレードには一万を超える人が集まり、喜びに心を一つにしました。

これらは、私たちにさまざまな元氣や誇りをもたらしてくれるとともに、夢を抱くことの大切さを思い起こさせてくれました。

平成二十二年県政運営の基本方針

平成二十二年度は、現下の財政的危機を克服しつつ行財政基盤の確立を図ることによって未来への土台固めを行うとともに、一歩進めて、次期総合計画の策定を通じて栃木県に明るい展望を描くことが県政運営のポイントであると考えています。

▼行財政基盤の確立

平成二十二年度は、財政健全化等を柱に、平成二十四年度までを集中改革期間として、平成二十一年十月に「とちぎ未来開拓プログラム」を策定してから最初の本格的な予算編成を経て、実質的な初年度としてスタートしました。

栃木県の平成二十二年度当初予算は、県税収入が大きく落ち込む中、給与カット等内部努力の徹底や行政経費の削減などプログラムの着実な実行を図ることによって、プログラム策定時に見込んでいた財源不足額を可能な限り圧縮しました。

しかしながら、自律的な行財政基盤の確立と、県民満足度の高い県政の実現のためには、職員が丸となってプログラムを実現していくことが必要であり、私もその先頭となって力を注いでいます。あわせて、多額の財源不足が恒常化している地方財政の現状を踏まえ、全国知事会等を通じ、地方交付税の法定率の大幅引上げ等による地方財源の充実強化を国に強く求めていくことも重要であると考えています。

また、極めて厳しい行財政状況にあって、着実な県政推進を図るためには、行政運営全般にわたる不断の見直しが必要となります。このため、平成二十三年度を初年度とする新たな行財政改革大綱の策定に着手することとしました。この大綱には、プログラムの考え方を踏まえながら、財政健全化を始め、県民中心の開かれた行政運営、市町村・民間との協働、簡素で効率的な執行体制などについての、五年間の方向性を盛り込む考えです。

▼次期総合計画の策定

少子高齢化が進み、人口減少・超高齢社会が現実のものとなり、経済のグローバル

化や高度情報化がより一層進展するとともに、地球環境問題が深刻化しております。また、危機的な財政状況の中で、依然として景気の先行きが不透明なことに加え、国と地方の役割分担を抜本的に見直す第二期地方分権改革が本格化するなど、私たちを取り巻く状況は時事刻々と変化しています。

こうした時期にあって、時代の潮流や、本県が持つ可能性や潜在力を的確にとらえた上で、栃木県が持続的に発展していく道筋を明らかにし、さまざまな主体との協働の下、これからの「とちぎ」づくりを進めていくことが極めて重要であると考えています。

昨年度から策定を進めている次期総合計画は、社会経済情勢の変化に柔軟に対応できる計画とするともに、広く県民の皆様に理解され、共に行動するための共通の目標となる、分かりやすい計画にしていきたいと考えています。また、厳しい行財政状況下ではありますが、複雑・多様化するさまざまな課題に的確に対応しつつ県民益の最大化を目指すため、選択と集中による施策の重点化を図り、さらには、将来に向かって明るい展望が開ける戦略性の高い計画であるべきだと考えています。

具体的には、「人づくり」を政策の基本に据え、「暮らしを支える安心戦略」「明日を拓く成長戦略」「未来につながる環境戦略」の三つの重点戦略に沿って、これまで以上に強化すべき取り組み、早期に達成すべき取り組み、新たに着手すべき取り組みをいくつかのプロジェクトにまとめ上げることとし、多くの県民の皆様と議論を重ねながら、これからの県政の羅針盤を作り上げていきます。